

令和7年度第3回シン・十文字拠点基本構想策定委員会 議事要旨

日時	令和7年9月18日（木）18:00～19:40
場所	十文字地区交流センター交流ホール1
出席者	臼木 智昭 委員長、高橋 純一 副委員長、千田 慎之介 委員、高橋 淳 委員、樋渡 直 委員、佐藤 健 委員、高橋 賢史 委員、嵯峨 陽子 委員、佐々木 義和 委員、佐藤 傳彦 委員、遠藤 宗一郎 委員、佐々木 百合子 委員
欠席者	井上 博子 委員、岩根 えり子 委員
事務局	総務企画部長 小玉 幸平 総務企画部地域創造戦略室 室長 宮本 敦、室長代理 高橋 知巳、 副主幹 吉野 広平、主査 酒井 あずさ まちづくり推進部 次長兼十文字地域局長 畠山 容子
議事	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 案件 (1) 先進事例視察報告について・・・資料1 (2) 中高生を対象としたワークショップ実施報告について・・・資料2 (3) 対象エリアのターゲットと必要な機能の整理について・・・資料3 4. その他 (1) 第4回策定委員会の日程について (2) その他 5. 閉会
資料	【資料1】先進事例視察報告 【資料2】中高生を対象としたワークショップ実施報告 【資料3】対象エリアのターゲットと必要な機能の整理

【議事要旨】

次 第	発言者	発言概要
1. 開会	司会	ただいまから第3回シン・十文字拠点基本構想策定委員会を開会いたします。司会を務めさせていただきます地域創造戦略室の宮本と申します。よろしくお願いいたします。 本日は井上博子委員と岩根えり子委員からは欠席の連絡を受けています。 それでは次第に従って進めさせていただきます。はじめに臼木委員長よりご挨拶をお願いいたします。
2. 委員長挨拶	委員長	皆様方、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。この基本構想策定委員会は今回で3回目を迎えております。今日ご報告する資料1に色々盛り込まれておりますけれども、9月5日に一部の委員の皆様と山形県の子育て施設に視察に行っておりました。その内容につきましても今日ご報告をさせていただくことを予定しております。その他、次第にございますように、夏休み期間を利用して地域の中高生の皆さんに集まっていただいてワークショップを開催し、その結果もご報告いただくということで、今日は内容的には盛沢山になるかと思います。いつものように限られた時間ではありますけれども、ぜひ皆様から忌憚のないご意見を承りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
	司会	臼木委員長、ありがとうございました。それでは次第に従いまして、案件に移りたいと思います。委員会の規約によりまして、臼木委員長に議事進行をお願いしたいと思います。
3. 案件	委員長	改めまして、よろしくお願いいたします。それでは、次第の案件（1）先進事例視察報告について、事務局から内容について説明をお願いしたいと思います。
	事務局	～事務局より説明～【資料1】
		～アジア航測(株)より補足説明～
	委員長	ありがとうございました。ご参加いただいた方から熱い思いを伺いたいところなのですが、まず説明を受けて参加されていない方、初めてご覧いただく方もいらっしゃると思いますので、何か質問や確認したい点等ございましたら挙手いただければと思います。 私のほうからは、補足資料8頁に事業の手法の違いが載っているのですが、寒河江市の場合は何方式でやったのかと

	ということ、その方式はどんな特徴があるのかを教えてください。あとは9頁10頁がCLAAPIN SAGAEのチラシになっているので、参考までにご覧いただければと思います。
アジア航測(株)	CLAAPIN SAGAEではDBO方式で採用しております。DBOというのはDesign Build Operateの略で、設計・建設・運営を一貫して、民間事業者が行う方式です。行政は施設の所有者として管理監督を行い、事業者指定管理費を支払います。民間事業者は行政からの指定管理費とこの施設で行われているアート教室や運動教室等の自主事業で収益を得ることになります。
委員長	ありがとうございました。私も現地で施設の方から伺ったのですけれども、直営や指定管理がよくあるパターンであり、いずれにしても行政が施設をデザインして作り、出来上がったものを誰かに管理してもらうというのが今までの行政が作る施設の運営方式でした。DBO方式だと設計・施工の段階から民間の事業者が関わっていて、出来上がった後も事業者がビジネスを営んで指定管理費と収益を得る。行政は所有者になって監督はするが、基本的に中身はお任せということで、うまく回れば民間の良いところを引き出せるという話をされていました。今はこういうやり方が流行っているのだと感じたところです。 ご質問はいかがでしょうか。質問がないようであれば、視察に参加された方に一言頂戴できればと思います。
副委員長	とにかく驚きました。子どもたちが遊ぶ施設がとにかく立派で、最初はここまで必要なのかなと思っていましたが、コパルの館長さんの説明によると、近年は暑すぎて外では遊べないため、冷房の効いた屋内で遊ぶ子どもが増え、夏の利用が多かったということで、なるほどと感じました。子どもと一緒に滑ってみたり穴に入ってみたり、ネットを渡ってみたり、童心に戻って遊んだ人もいました。親が喜ぶと子どもも喜ぶのだなと思いました。そういう観点から屋内施設もいいなと思いました。視察に行く前は建物を建てるだけが整備ではないなと思っていたので、建物の重要性をしみじみと感じたところです。
委員長	他はいかがでしょう。
委員	私も2つの施設を視察させていただいたのですが、率直にどちらも素晴らしい施設という印象でした。チェリーランドのほうは子どもたちがメインで楽しめる施設だなというふうに感じました。インクルーシブ施設のほうは大人も共に楽しめる施設

	だなど大きく感じたところです。今回、基本構想の中で横手市の目標である子育て世代を中心に次世代が集まれる憩いの場というメインテーマに合致した施設ではないかなと感じました。
委員	私も行ってきました。子どものように遊んだのも私です。楽しかったです。真っ先に建物に大変驚きました。どちらの施設もネットでの予約制となっており、90 分の利用時間で 1 日中いることはできないけれども、入替で多くの方が遊んで体験できるようにしているということです。山形市のコパルのほうは、相談施設を兼ね備えているというところが非常に大きいなと思いました。十文字にも不登校生徒が通える教室はあるんですけども、そういうのも併設されていて毎日のように通える環境があるということも大変いいのかなと思いました。まず、入ってすぐにバスケットゴール一面がある体育館で、夜 7 時以降はミニバス等のスポ少に有料で貸し出したりしているそうです。もちろん、CLAAPIN にもあるような小さいお子様や児童が遊べるような遊具があり、どちらも素晴らしい施設だなと思いました。また、駐車場が一番重要性を感じました。特に寒河江市のほうですけども、あれくらいの人を受け入れる施設を揃えても駐車場がなければ人は来ないだろうなと思いました。大変良い視察をさせていただきました。ありがとうございました。
委員	私も参加してきました。参加した皆さんがまず一言「行ってよかったな。素晴らしかった。」私も同じ思いで参加して良かったなと感じております。第 1 回策定委員会では、自由に話し合ってくださいということで、子育てしている委員は子どもが遊べる施設があったほうがいいのか、こういう商業施設があったほうがいいのかという色々な立場からの意見が出ました。第 2 回策定委員会では、ターゲットはどこにするか話し合い、活発な意見も出て、個人的に皆の色々な意見が出て良かったと思っていました。視察に参加してみて、皆の意見が何となく整理ができそうな感じを受けました。具体的に言いますと、寒河江市はエリアごとにきちんと考えている。3つのエリアのうち、交流拡大エリアは道の駅を中心とした商業施設でインバウンドを迎えられる多言語表示もあり、昔行った道の駅とはかなり姿が変わっていてお洒落に展開されていました。アクティビティエリアは子育ての屋内施設で子どもがもう一度来たいなと思えるような施設で先程お話があったとおりです。健康増進エリアは、子

	どもからお年寄りまで色々な立場で色々な目的をもって交流できる。そして相互交流ができる。すごく勉強になりました。色々な立場の人がここに来るとワクワクするようになっていて、2回目までの皆の意見がここにすっぽり入って吸い込まれるような印象を受けました。先程、先生が質問しましたように DBO 方式はいつ頃から成り立ってきたのかなと行政の方に質問したいと思っていました。色々な方式をきっちり勉強なされて、色々な事業所を加えてなかなか大変だろうと思うのですが、びっくりするような子どもの施設だったと思います。委員がおっしゃったように、入場料が無料で色々なことを考えて運営しているのだと勉強になったというのが第一印象です。
委員長	参加されていない皆さんに動画とカリアルな感じでお見せできないのが残念でならないのですが、何十年か前に子どもだった私たちがちょっと子どもに返れるような施設でした。どちらも特徴があって、特に山形市のコパルは、単純に子どもを遊ばせるというだけではなくて子育て支援センター機能を兼ねているということです。例えば、不登校のお子さんが相談に来て1日過ごせるような対応をしていたり、単純に子どもを遊ばせるだけというタイプの施設ではなく、インクルーシブで地域の色々な方が集まれるような半分は教育、もう半分は交流の場というのを意識されている施設でした。寒河江市のほうはもともとあった道の駅のテコ入れがそもそもの出発だったようですが、気づいてみたら子育て施設のほうがフォーカスされてすごく話題になっていて、そこに人が集まることによって道の駅のほうにも良い効果があった。子ども施設を整備したからといってそれだけの目的ではなく、商業施設と両立できるのだということが非常に勉強になりました。
委員	私は皆さんと一緒に視察には行けなかったのですが、夏休み中に子どもの病院で宮城に行った帰りにコパルと CLAAPIN SAGAE に行ってきました。子ども目線というか私から見てもどちらも素晴らしいところでした。コパルのほうはゆっくり遊べるというイメージです。外に噴水や何人も乗れるブランコがありました。シャワールームは屋内に整備されていて、着替えだけができるお部屋があり、トイレはおむつ替えができるスペースだけではなく大人も寝られるようなベッドがありました。遊び場には、e スポーツのもう少し体を動かせるような、デジタ

	ル映像で手を動かしたりタッチしたりすると映像が変わったりする遊びもありました。本もたくさんあって、何冊あるのか質問したら、1000 冊以上あって随時入替しているとのことでした。軽食が取れるお店もありました。CLAAPIN SAGAE のほうは入ってすぐにさくらんぼをイメージしたような大きなネットの遊具があって、私も子どもを追いかけて上のほうまで行きました。ネットは怖くてできなかったのですが、1 番上の子と下の双子は CLAAPIN SAGAE のほうが楽しかったと言っていました。2 番目の障がいのある子はコパルのほうがゆっくり遊べて良かったという雰囲気でした。なぜかと言うと、寒河江市のほうは遊び場がブースごとに区切られているのですけれども、それぞれ対象年齢が書いてあるので、遊びたくても年齢対象外だと入ってはいけません。子どもはブースの中が見えるので、どうしても遊びたくなくなってしまいが、親は入ってはいけなくと注意するしかない。英語のお部屋では、壁に映像が流れていたのですが、そこになぜか木の積み木があって遊んだら間違いなくうるさくて英語の音が聞こえなくなるだろうと思いました。高級そうな木の積み木だったので、箱に入ったままでもったいなく、もう少し活用出来たらいいのかなと思いました。楽器のお部屋では、木琴とか叩いたりするのがすごく楽しそうでした。どちらも当日予約で、平日だったので入れたのですが、1 番上の娘は高校 1 年生なののですけれども、やはり思いつき遊びことはできないと言っていました。というのも、対象年齢があるのかなという感じです。小さい子、小学生はぎりぎり高学年くらい、中学生になると遊びに行こうよという感じにはならないかなという雰囲気でした。十文字にせっかく建物を建てるのであれば、中高生にも喜んで利用してもらえるような部分があるとよりいいのかなと感じました。本当にどちらもすごく素敵な施設でした。
委員長	ありがとうございました。改めて、ご質問とかご意見がございましたら。
事務局	先程、DB0 のことでご意見がありましたので、横手市や県内の施設のご紹介をさせていただきます。DB0 という方式自体は以前からあったのですが、なかなか県内では進んでいない状況でした。横手市の場合、10 年以上前にごみ処理施設（クリーンプラザよこて）を建てる時に設計も特殊ですし、県内・国内

	でも設計できるのも限られており、施工できる業者も数者しかおらず、運営については、ごみ処理施設なのである程度収益を見込める施設のため、設計・施工・運営をトータルでやったほうが良いということで、DBO 方式でやりました。県内ですと、県立体育館が DBO 方式で行っております。現在、大仙市でも屋内型の児童遊戯施設を計画しており、そちらも DBO 方式で、設計・施工・運営までを特定のグループを組んで行ってもらおうということを始めたところのようです。全国的にはそういう流れとなってきた状況です。
委員長	ありがとうございます。どうしても視察に参加した人は熱く語りたいのですけれども、先進事例の報告のほうはここまでにさせていただき、議題（２）のほうに移らせていただきたいと思います。夏休みを利用して、ワークショップを３回開催していただいたようです。中高生を対象としたワークショップの実施について、ご説明をいただければと思います。
事務局	～事務局より説明～【資料２】
委員長	ありがとうございました。資料２の中高生のワークショップの内容のご報告、取りまとめがありましたけれども、ご質問やご意見、あるいはここをもっと私たちの構想に取り込んだほうがよいのではないかというようなご意見がありましたら、教えていただければと思います。いかがでしょうか。
委員	６頁目の手段・方法のところにある循環バスはあったほうがよいのではないかと思います。どこまで行ける循環バスかにもよるのですけれども、三重地区交流センターや西地区交流館にもフリースペースがあるので、そこを利用できたら勉強できるスペースというのは確保できるのではないかと思います。例えば、学校が終わって循環バスに乗って勉強をして家に帰るというのは良い流れになるような気がします。ただ、どこまでどういうふうにするかはちょっと分からないのですけれども、そういうのはいいんじゃないかと思います。
委員長	ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
委員	今の循環バスがあったらいいなという話ですが、先日、私の大学の後輩が来て、時間があるのでちょっと観光がしたいと言って回ろうとしたら、週末だったのですがバスが本当にはないのです。増田にまんが美術館とか蔵があるので行ってみたらと話したんですけれども、夕方、増田から十文字に帰るためのバス

	は3時 20 何分が最終という現実を目の当たりにして、これではこの地域の観光は何ともならないなと思いました。私たちは車に乗って便利な生活をしていますけれども、中高生は歩くしかない。車を持たない若者や高齢者のことも考えなければいけないという意味では、やはり循環バスや乗合タクシー等の交通手段はあったほうがいい。平日は学生のために羽後交通が若干動いているが、土日は公共交通機関のバスはないと思わなければいけないという現状に気づいたので、今お話をさせていただきました。
委員長	ありがとうございます。私も以前、県内の町で交通関係の会議がありました。今、バスの運転手さんが足りない状況で、バス会社さんも本数を走らせたいのだけれども、減便で時間帯を絞ってバスを運行しなければいけないという事情があります。県内各地でバスが動く時間帯の整備や、それに伴って自分たちの町の中を動くのにどうするのだという議論が活発に行われています。いつもそういう会議に呼ばれて愕然とするというか、皆さんも同じらしいのですけれども、中学・高校以来、地域のバスに乗ったことがないので、今のバスはどこのルートを通っているのだろうと、皆目見当がつかない人たちが集まってバスのことを議論するというのが、どこの地域でも行われています。その会議に出席するのにルートを知らないのは地域の人に対して失礼だなと思って公共交通機関で会議場所まで行ってみたのですけれども、会議でこのバスはここを通っているのですよねという話をしたら、地域の人に感心されたのを覚えています。逆に言うと、中高生の視点というのは、公共交通機関を利用している人の視点なので、そこはすごく参考になるような気がしました。循環バスをどの時間帯でどこを走らせるのかというのは、いざやろうと思うと色々と議論はあるのですけれども、こういう手段にしか頼れない人たちの見方からすると、こういうのも重要なポイントなのかなと拝見していました。
委員	横手市さんにお伺いしたいのですけれども、第一小学校を活用する場合、かなり大がかりな改修をすれば使えるとか、解体したほうがいいのか、建物活用の程度を教えていただければと思います。
事務局	十文字第一小学校の程度ということですが、建物自体の耐用年数は結構経っていますので厳しい部分はあります。耐

	震の部分が重要で、十文字第一小学校の一部は耐震になっているのですけれども、他は旧耐震の基準になっていて新基準を満たしていないという状況になっています。やはりその部分を改修となると、概算金額をはじいたことはないのですけれども、結構な金額はかかると思います。第二小学校を改築して三重地区交流センターにしましたが、校舎自体はそうでもなかったのですが、小学校の設備をそのまま使うのは非常に厳しく設備の入替が必要になってきます。全面改修ではないとしても、再利用ということになると結構金額がかかると思っています。ただ、委員の皆さんや中高生のワークショップからは学校の再利用という話は出てきておりますので、小学校に限らず、解体するのか再利用するのかというのは、基本構想の後の基本計画の中で費用対効果を検証する中で分析しつつ検討していくべきかと思っています。必要な機能を決めた上でこういう施設にしたいとなったときに、今ある建物が使えるのかどうか、検討するのは次のステップだと考えております。
委員長	他はいかがでしょうか。
委員	循環バスは必要だと思います。十文字駅からのアクセスが全体的に悪くて、拠点となるような増田の町やまんが美術館等が、電車の時間と羽後交通の時間は微妙に重なってはいるものの、シームレスに繋がらず不便さがあります。それを中高生たちや公共交通機関を使っている人たちが感じているのだと思います。高校が増田高校に集約されていくことを考えると生涯学習ができる場所は必要になってくるし、今後の人口減少を考えたときに色々な箇所にそういうものを作っていくのかというと、予算的にも現実味がない。中心部にあらゆる機能があるものを作って、中心部から離れている人のためにアクセスしやすくする必要があります。せっかくまんが美術館という素晴らしいものがあるのにアクセスが悪くて行けない、住んでいる人たちが行きづらいとか、そういうのは解消していったらいいと思います。この拠点に山形の施設のような色々な要素を足せるのであれば、まさにここを拠点にして循環バスを含めた交通拠点にして、ここから循環させるというのは1つあるのではないかと思います。色々な交通機関の調整が難しいと思うので、そこが課題なんじゃないかと思います。Ao-na が横手駅前にできたので、子どもたちは同じようなものがほしいとなってしまいま

	すので、十文字に高校が3つ集まるという意味では拠点はあってもいいのかと個人的には思います。
委員長	ありがとうございました。中高生のワークショップに関するご意見はいったん終了させていただいて、(3) 対象エリアのターゲットと必要な機能の整理についてということで、事務局から説明をお願いしたいと思います。
事務局	～事務局より説明～【資料3】
委員長	ありがとうございました。資料3については、前回、前々回に皆さんと議論してきた内容を前回の議論の中で別の資料でまとめていただいたものの中で、色々ご意見が出て、それを踏まえて、かつ視察の内容も盛り込んでいただいた上で整理していただいた資料となります。私のほうから事務局の方に1つ確認したいことがあります。資料3をベースに第4回、第5回の議論の中で基本構想を少し煮詰めていくという認識でよろしいでしょうか。
事務局	おっしゃる通り、次回（第4回）は将来像や必要な機能、ターゲットを中心に据えた形で基本構想の素案のようなある程度まとめたものをお示して、より深く議論していただきたいと思っております。
委員長	現時点で皆さんの議論をコンパクトにまとめると資料3ということになります。これは結論ではなくて、今までの議論や視察の内容を踏まえて整理した資料だにご理解いただければと思います。あくまで現時点ということですので、まだ議論の中で修正できます。今までの議論を踏まえて、違和感があるとかこれが足りないのではないか、ここがよく分からないというようなことがあれば、ご意見を承りたいと思いますけれども、いかがでしょうか。
委員	防災機能の点で、昨年7月の大雨の際に冠水を起こしたのが道の駅の真横でした。消防団で夜中まで排水活動をしていたのですけれども、文化センター前まで道路が何時間も使えませんでした。万が一、有事の際に道の駅を拠点にした場合、道の駅までの道路が遮断されたら元も子もない。資料3には書いてないのですけれども、水路整備も含めた上で考えていかないといけないと感じました。
委員	大体のイメージはこんな感じなのかなと思っていて、その中でコンセプトの道の駅と連携とありますが、産業振興機能は既

	存する道の駅の役割はすごく大きいと思います。民間の企業ということで、そこを無理やりどうこうというのはどうかという話にはなるかもしれないのですが、個人としては道の駅の売り上げや知名度が上がるのがこのエリアに絶対に必要だと思っています。県内だと道の駅うご（端縫いの郷）や道の駅象潟（ねむの丘）も再整備が進んでいて、十文字も一時的に１番になりましたけれども、今は存在感がなくなっている。ここに再投資をするのであれば、道の駅は外せないのではないかと思います。十文字第一小学校から道の駅を見ると、表側は物がたくさん置いてあって元々の建物があまり分からないと思うのですが、裏側はロケーションが良くて格好いい建物なのです。十文字や増田は色々な資源があるので、それを引き出して道の駅で売っていくともっと売り上げが大きくなっていくと産業振興の拠点になるものになる。道の駅の売り上げを上げることをしっかり考えたほうがいいと思うので、道の駅と連携というところをもっと大きく扱ってもいいのではないかと思います。
委員	この中にはないことなのですが、十文字は人がいい、人が温かいと中高生たちは言っていますが、十文字は街灯が少なく、防犯カメラは商業施設にしかない。道を歩いていて、防犯カメラを見たいと思ってもないと思うのです。安全面をもう少し見てもらえるといいのかなと感じました。防災機能＋防犯機能というところも取り入れて、より安心・安全な町にしていけたらと感じました。
委員	たたき台としてはこの整理の仕方は非常にいいなと思います。委員も話していましたが、道の駅との連携で相乗効果、という立ち位置をどの辺に持っていったらいいのかなと思いました。寒河江市のチェリーランドという名称があるが、十文字は道の駅十文字しかない。防災機能の中で以前も話しましたが、備蓄＋雪室。ここは発酵の町でもあるので付加価値をつけた商品、その防災機能を取り入れた雪室でチェリーランドのような名称を付ければ、道の駅のアピールになるので検討してみてもいいのではないかと思います。
委員長	資料３の内容については引き続きご議論いただくのですが、もしお気づきの点があれば事務局のほうにメールしていただくというのはいかがでしょうか。他の人の意見や視察の話聞いてみて、今日承った意見は一旦事務局のほうで検討いただくと

		して、次回までに何か言い足りなかった、あとで気づいたこととかありましたら、メール等でお寄せいただくとして、その内容については、次回、事務局のほうからご報告していただくというのはいかがでしょうか。 では、資料３につきましては、宿題としてご検討いただくということで、その他、事務局のほうから連絡がありましたら、お願いいたします。
4. その他	事務局	色々なご意見を頂戴しまして、ありがとうございます。第４回策定委員会の日程をお知らせいたします。10月31日（金）18時から開催いたします。会場は三重地区交流センター会議室となります。後程、皆様に開催通知を送らせていただきますので、会場をお間違いないようにお越しいただければと思います。ご出席の程、よろしくお願いいたします。 最後に、委員長からもお話がありましたけれども、全ての資料につきまして、ご意見や気づいた点等ありましたら、メールで送っていただければ参考にさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
5. 閉会	司会	以上をもちまして、第３回策定委員会を閉会いたします。ありがとうございます。